

創世記 1 章 1 節から学ぶヘブル語文法

●創世記 1 章 1 節を繰り返し読み、暗誦し、そして見ないで書けるようにしましょう。この文節には多くの情報が隠されているからです。

ハーアーレツ ヴエー(ツ)ト ハッシャーマイム エー(ツ)ト エローヒーム バーラー ベレーシート

בְּרֵאשִׁית בָּרָא אֱלֹהִים אֶת הַשָּׁמַיִם וְאֶת הָאָרֶץ׃

●創世記 1 章 1 節には、以下に見られるような文法的情報があります。

1. 四つの名詞

- (1) 「はじめ」を意味する「レーシート」רֵאשִׁית、これは女性形で、男性形は「ローシュ」רֵאשׁ です。
女性名詞の場合には、男性名詞の語尾に、ָーや ׀ー を付けるものが多いです。
- (2) 複数形で表わされる(畏敬名詞)「神」を意味する「エローヒーム」אֱלֹהִים、複数形は語尾に「ים-」を付けます。形としては「神々」を意味する複数形ですが、意味としては単数。こうした複数形を「威厳の複数」、あるいは「畏敬の複数」と言われます。「エローヒーム」は、そうした「畏敬名詞」です。
※「神」を意味する普通名詞と固有名詞については、⇒別紙参照。
- (3) しかし、「天」を表わす「シャーマイム」שָׁמַיִםも、ある意味では「畏敬名詞」です。なぜなら、ユダヤ人にとっては、「神」と「天」は同義語として使われることがあるからです。しかし、一般的な意味の「天」でも常に複数形です。
- (4) 「地」を意味する「エレツ」אֶרֶץ で女性名詞です。名詞(形容詞も)には男性名詞と女性名詞があります。
一般的には、女性名詞の場合には、男性名詞に女性語尾の「ヘー」(הַ)を加えます。
例: 「夫」(אִישׁ)⇒「妻」(אִשָּׁה)、 「王」(מֶלֶךְ)⇒「女王」(מַלְכָּה)、

2. 名詞につく冠詞

- 創世記 1 章 1 節では、二つの名詞、つまり「天」と「地」を意味するそれぞれの名詞に冠詞がついています。ヘブル語の冠詞は普通、名詞の頭に הַ「ハ」を付けます。英語でいうなら the です。日本語だと「その」です。
- (1) 「シャーマイム」שָׁמַיִם に冠詞を付けると「ハッシャーマイム」הַשָּׁמַיִםとなります。ここで注意すべきことは、冠詞がついたことで、「シャーマイム」の最初の文字に「ダゲシュ」(׀)が入っていることです。
א、ה、ו、ע、ך、以外は、すべてダゲシュがつきます。
 - (2) 「エレツ」אֶרֶץ に冠詞を付けると「ハーアーレツ」הָאָרֶץ
א、ע、ך の前の冠詞は母音が長くなって、הַ となります。ですから、「エレツ」אֶרֶץ に冠詞を付けるならば、本来、「ハーエレツ」הָאָרֶץとなるはずですが、「エレツ」の場合に限っては「ハーアーレツ」הָאָרֶץとなります。「民」のעַםの場合も「ハーアーム」הָעָםとなります。これはそのまま覚えるしかありません。
- 創世記 1:1 にはありませんが、הַ הַ הַ הַ עַ で始まる語につく冠詞は הַ となります。例としては「ちり」הָעָפָר
- ※名詞に冠詞をつける練習問題は別紙で行います。⇒【冠詞の練習問題】参照

3. 一つの前置詞 **בְּ**

● ここには、英語の in に当たる前置詞「ベ」**בְּ**があります。前置詞 **בְּ**は、「(ある場所)で」「(ある時)に」「(何々)でもって」などの意味を表わします。他の前置詞としては、「レ」**לְ**があります。これは、「(ある人)に」「(何々)のために」などの意味を表わします。英語で言うと、to, for に相当します。もうひとつの前置詞として「ケ」**כְּ**があります。「~のように」の意味で、英語で言うと、as, like に相当します。ちなみに、前置詞の **בְּ**と **כְּ**と **לְ**は、名詞の語頭につけます。

4. 一つの接続詞 **וְ**

● 接続詞の「ヴェ」**וְ**は、冠詞と同様に次の単語にくっつくのが特徴です。意味は、以下のように、実に幅広く、文脈から選ぶ必要があります。「そして、そこで、それで、こうして、すると、さて、また、しかし、・・・」など。
● 創世記 1:1 の「ヴ・エート」**וַיְהִי**のように、普通は「ヴェ」**וְ**ですが、単語の最初の文字に **וְ**一つの動詞のように有音セヴァーがあったり、あるいは、文字が唇音(**בּ מּ פּ**)であったりするとき、**וְ**が **וּ**となりますが、あまり細かいことを覚えず、ヘブル語の接続詞は「ヴァヴ」**וּ**にいろいろな発音記号が付されるということだけを頭に入れておけばよいと思います。

5. 名詞を目的格(対格)とする「エート」**אֶת**

● 「エート」**אֶת**は、動詞の目的語となる冠詞付の名詞、ないしは固有名詞の前に置かれます。
● 「エート」**אֶת** それ自体は意味のない語彙ですが、ヘブル文字の最初の「アーレフ」と最後の「ターヴ」の文字で構成されており、「初めであり、終わりである方」であるイエシュアを指し示す語彙と解釈することができます。ヘブル語で「真理」を意味する語は「エメス」**אֱמֶת**ですが、中央の「メーム」**מ**はそれだけで「水」とか「真理」を意味します。つまり、真理とは「初めであり、終わりである方」を指し示しているとも言えるのです。ヨハネの福音書には「水と御霊」(3:5)、「生ける水」(4:10)、「霊とまこと」(4:24)というフレーズが出てきますが、ヘブル的視点から解釈するなら、「水」と「まこと」はイエシュア・メシアを指し示しています。

6. 一つの動詞 **בָּרָא**

● 創世記 1:1 には、「バーラー」**בָּרָא**という一つの動詞があります。動詞はヘブル語において最も重要です。英語では第一人称単数、現在形が基本形となりますが、ヘブル語では三人称、単数、男性、完了形が基本形となります。つまり、ヘブル語辞典に記載されている語です。Qal(カル)形とも呼ばれます。
● 「創造した」という意味の「バーラー」**בָּרָא**は、旧約聖書では 54 回も使われていますが、しばしば言われるように、必ずしも「無からの創造」を意味しません。むしろ、この動詞の特異性は、**主語が常に神である**という点です。つまり、神の働きを指し示す動詞であり、神のために取り置かれているのです。

7. その他 — 創世記 1 章 1 節にある「メリズモ」修辞法について

● これについては、私の HP「牧師の書斎」の創世記 I のトピックを参照してください。